

2016年2月22日

## 札チャレラジオ通信 第7回

飯村：三角山放送局をお聴きのみなさん、こんにちわ。札チャレラジオ通信の時間です。私は先週に引き続き本日のパーソナリティーを務めさせていただきます NPO 法人札幌チャレンジの飯村富士雄です。よろしくお願いします。

この札チャレラジオ通信は自立を目指す障害のある人が IT で、マザル・ハタラク・拓き合う、社会をつくりたいとの思いで活動している、NPO 法人札幌チャレンジが毎週月曜日この時間に札幌チャレンジの活動内容をお伝える番組です。2016年一年間放送します。

今日第7回目の放送は私、飯村とそしてもう一人。

岡野：はい、こんにちわ。札幌チャレンジの事務局長の岡野です。今日は飯村さんと私の、ヒゲヒゲおじさんコンビで進めたいと思いますのでよろしくおねがいします。

飯村：はい、そうゆうことですね。二人とも還暦を過ぎています。ですから札チャレに尋ねられた場合には「年寄りではやしている人」と言われても、どちらかわからないので、ぜひ具体的に、岡野あるいは飯村、とお声をおかけください。

それでは、この番組では毎回札チャレに関わりのある方をゲストとしてお迎えしております。先週と先々週は札幌チャレンジのパソコン講師の方にご参加いただきました。パソコン講習・パソコン指導は、レギュラーとしての講師の方々だけではなく、他にボランティアさんの協力で運営されています。

今日は、そのボランティアのお二人、強力な助っ人をゲストとしてお迎えいたしました。鈴木浩子さんと小寺正剛さんです。よろしくお願いいたします。

岡野・鈴木・小寺：よろしくお願いします。

飯村：岡野さんねえ、このお二人よくご覧になってると思いますけれども、いかにもパソコン関係というその筋の人という感じしません？

岡野：オタクですか？

飯村：そこまではちょっとと言う元気はなかったですけどね。それではですね、お二人に自己紹介をお願い致します。まずは鈴木さんお願いします。

鈴木：こんにちわ、鈴木浩子です。私は2010年に夫の転勤で札幌に来ました。せっかく新しい所に来たので、何か今までやったことのない事をやりたいなあとあって、いろいろ探しているなかで、札幌市の広報の中でパソコンボランティアの養成講座の案内を見つけて、それを受講して翌年からパソコンのボランティアの登録をしました。その時から札チャレとのお付き合いが始まっています。

飯村：お世話になっております。そしてもう一人の小寺さんですね。

小寺：はい、こんにちわ小寺と申します。7年前にボランティア情報誌のボラナビで札幌チャレンジジドが、札幌市ITサポートセンターの訪問ボランティアを募集しているのを見まして、それで応募してそれからお世話になっております。

飯村：お二人とも養成講座というのを受講いただいたのですね。

この養成講座というのは、札幌チャレンジジドもいろんなことをやっているのですが、札幌市障がい者ITサポートセンター事業というのがありまして、障害のある方の個人宅にお邪魔して、要望に応じてパソコンを指導する、そういうボランティアさんを要請する講座なんですね。お二人はその受講が直接のきっかけだったということですね。毎回私が講習を担当させていただくんですけども、いかにもこういう人たちってなんか嫌なんですよ。

鈴木・小寺：うふふっ。

飯村：なんか、多分こっちよりパソコンを知ってるだろう、さてはどこかでスキをうかがって突っ込もうとしているんじゃないか？そういうヒヤヒヤした気持ちで講習をさせていただくんです。しかしそういうお二人には、こちらの強力な味方になっていただくのが一番だということで、今までお付き合いいただいております。

それでお二人は今、どんなようなことを札幌チャレンジジドあるいはそれ以外でも結構ですが、どんな関わりでお付き合いいただいているか、それをちょっとお聞かせいただけますか？まず鈴木さんから。

鈴木：はい、今お話しがあった訪問のボランティアと、あとは札チャレの中でやっている、教室でやっている講習のお手伝いですね。昨年のはじめはどちらかというと教室でやって

る講習のお手伝いが多かったかと思います。

飯村：いろんなところでお付き合いいただき、非常に助かっています。

もう一人の小寺サンですね。

その前に、小寺サン今日は自宅からこちらまでは、何でいらしたんですか？

小寺：歩いてきました。

飯村：すぐに歩いて来るんです、どこへでも。それはどうでもいいんですけども、それではどうゆう関わりをもっていらっしたんでしょうか？

小寺：札幌市 IT サポートセンターのボランティアと、あと札幌チャレンジドが独自にやっている訪問講習と訪問ボランティアもやってます。

飯村：教室の方もお手伝い頂いてということですよね？

小寺：はい。

飯村：お二人は札幌チャレンジドで訪問して教える、そして教室に来ていただいて教える。この両方のお手伝いを頂いている訳ですね。

私もパソコンに関する相談とか承るのですが、中には結構難しい質問なんかも来るんです。そうすると、こちらも安請け合いをしちゃっていい加減なことを応えそうになっちゃうんですが、そこをぐっと堪えてお二人にお願いするなんてことも結構あるんですよね？

他にも色々と、例えば小寺さんですと、LAN のケーブルの調子が悪いんで、とかですね。そんなのも手伝っていただいて幅広く、お手伝い頂いています。

岡野：ハード的な面で、結構お手伝いをお願いしてますよね。

飯村：そうですね、ハードを言われちゃうと一番弱いんです。かと言って岡野サンに頼む訳にもいかない。というのになれば小寺さん、まずちょっと来てよと、いう風になる訳ですよ。

それでですねお二人どうですか？札幌チャレンジドは、色んなチャレンジドの方と触れ合

ってですね、その中でパソコンを教えてそしてそれを手掛かりにして社会参加なり、何なりをお手伝いするという団体なんですけれども。

お二人は札幌チャレンジドと関わり合う以前に、いわゆるチャレンジドともお付き合い、あるいは何らかの関わりはお有でしたか？

まず鈴木さんいかがでした？

鈴木：はい私は以前勤めている会社に結構たくさん(チャレンジドの方が)いらっしゃってですね。まったく同じ仕事をわいわいガヤガヤと、していましたので、当時はあんまり障害をお持ちの方だって意識はなかったんですね。振り返ってみると、結構いらしたんだなって感じでお付き合いしていました。

飯村：なるほど、職場は今思うんとそうだったんだと改めて、ということですね。

小寺サンはいかがでしょう？

小寺：私の場合は障がいを持った方が仕事をやっているのを見守りっていうんですかね？  
そういうような事を一年間ほどアルバイトでみていたことがあります。

飯村：ほうほう、そうすると札幌チャレンジド以前にも多少の関わりがあったということですね。ただ鈴木さんの場合はそれほど意識せずということですね。

鈴木：そうですね、まったく無かったです。

岡野：素晴らしい会社ですね。

飯村：そうですね。具体的なことはともかく、どんなような感じの会社だったんですか？

鈴木：IT系の企業で、私もその方たちもみんなエンジニアとして、昼も夜もなく一緒に仕事をしておりました。

飯村：そうするとIT企業で扱えるものがITだというのは、いわゆるチャレンジドにとっては活かされる、(個人の)特性ですね。十分活かし得る職場だということですね。

鈴木：そうですね、はい。

飯村：ですから、そういう形を変えて札幌チャレンジドがいろんな所に場をつくろうとしていることになるのかなあ？

岡野：そうですね。ちょうど今札チャレが目的としてやってます、IT でマザル・ハタラク、まさにそれを地でいったというそういう企業なんですよ？

鈴木：そうですね。今思い返すといい会社でした。

飯村：じゃ、札チャレに来て増々、その思いが強まったということなんですかね？それに比べると札チャレは何だんだ？ということですかね？頑張りたいと思います。

そうすると鈴木さん、その頃は例えば IT の環境というか会社自体がね、いわゆる IT 企業なわけですけども。その頃すでにウェブ・メール、そういった情報インフラというものが今と同じような感じだったのでしょか？

鈴木：近くはなりつつありましたが、でも今みたいに在宅とか、そういうところまではインフラは進んでなかったですね。今その会社は勿論在宅とかもやられていますし、それぞれタブレットとかスマートフォンとか、ああいったものを活用して多分私が働いていたとき以上に、みんな外に出て仕事しているかと思います。

飯村：まあそういう企業のあり方というのは私たちとの活動と非常に密接な関係がありますんでね。そういった意味では色んな企業の方の取り組み、そういったものを情報交換しながら、情報を提供する、されるいい関係を築けたらと思いますね。

小寺さん自身は、本業って？

小寺：私はプログラマーですね。ソフトや技術者とか、SE とはちょっと違うんですけど。社会人になってから何十年もプログラムばかり組んでいます。

飯村：そうするとね、仕事も IT、ボランティアも IT、で 24 時間、酒を飲んでいる時ぐらいは・・・ですよ。やっぱりご自身の仕事として、これはこういう仕事をやってほしいなあ、とかこういうことを仕事にすると良いんだけどなあ、って思ったりします？

小寺：あの、障がい者の方？

飯村：そうです。チャレンジドの人に対してね。

小寺：そうですね、今は障がいを持っている方の講師も何人かおられるのですが、もっと

と多くなって逆に(障害を)持っていない方に教えるような教室を開いてもいいのかなあって思ってます。

飯村：そうですね、チャレンジドの講師、あるいは従事者の層を厚くしてもっと底辺をどんどん広げて。その中でまた新たなITの活用の仕方とか、もっと見えなかったものが出てくるようになるといいですね。そのためにはどんどん裾野を広げていって、私たちは逆にそれを学ぶという立場になればいいのかなという感じはしますね。

鈴木：そうですね。

飯村：それではですね、ゲストの方には毎回リクエスト曲をいただいております。今日はどうですか、鈴木さんからリクエスト曲を頂きたいと思います。曲の紹介をお願い致します。

鈴木：はい、銀河鉄道999を、エグザイルバージョンでお願いします。

飯村：はい、それではよろしくお願いします。

飯村：はい、それでは引き続きですけれども。

先ほどですね、パソコンの指導に関してですね。パソコンの訪問指導ということをちょっと触れさせていただきました。札幌チャレンジドではですね、札幌チャレンジドの訪問指導というのをですね、ずっと創業時からやっています。

あと先ほどもちょっとお話ししましたけれども、札幌市の障がい者ITサポートセンターというところで行なっている訪問ボランティアですね。これは札幌チャレンジドが担当させていただいています。

こうゆう誰か来てほしいとかですね、なかなか出向いて教わるというのは難しい方もいらっしゃるでしょうし、そういった方のための制度ですので、

もし興味があればですね、ご自身が、あるいは周りの方に、という方がいらっしゃいましたら是非ご連絡ください。札幌チャレンジドの電話番号は札幌011-769-0843。もう一度申し上げますね、札幌チャレンジド、札幌011-769-0843までお願いいたします。

それではですね、その訪問指導に関してですね。まあ団体の講習もやっているんですけども、訪問の指導というとまたね、教える側として違った側面が見えてくると思うんですね。それでお二人とも色んな体験、それから色んな方に出会ってという経験をされていると思います。その中でですね印象深かったこととかですね。貴重な体験だったこと、そんなことをおっしゃっていただけますか？じゃ、鈴木さんからお願いします。

鈴木：はい私は就労を希望されている方の所に伺ったことがあるんですね。最初はエクセルとかワードとかパソコンの使い方のご説明してたんですが、企業の合同説明会のようなものが近づいてきた段階で、一緒にワードで履歴書とか職歴書を作ったりとか、あと説明会の参加される企業のホームページを見ながら面接用の想定問答のようなものを考えて練習したりというようなことをしたことがあります。その受講者さんの体験を共有できて私にも良い経験になりました。

飯村：どうしてもやっぱり教えるのはパソコンなんですけどね。ただしパソコンも一つの道具ですからね。で、その道具をどのように使うというふうになると、やっぱり操作だけではなくてですね。ちょっとそこからはずれて、こうゆうふうにするといいいよ、という所が結構出てくるんですね。むしろそこに大事なヒントが含まれてるといいうふうに思うんですね。

岡野：結果はどうだったんですか？

鈴木：第一志望に受かれて、お話し聞いた時はすごい嬉しかったです、私も。

飯村：それは素晴らしいですね。

岡野：そうですね。人生の決まる所に立ち会えるという、そんな感じですよ。

飯村：こうゆう本当にちょっとしたことが大きく、左右するわけですよ。これを知ると知らないとは全然違いますからね。小寺サンいかがでしょうか？何か色々やってらっしゃると思うんですけども。

小寺：このへんで面白いと言ったら語弊があるかもしれませんが、パソコンのメールソフトのアカウント設定で、呼ばれて訪問したんですが。

行くなりコーヒーとお茶菓子が出てきて、その次には磯辺餅とか作っていただいて。でその人の日常のことを当事者の人が話されていて、私もそろそろ作業をやりますかと言うと、いやまだいいんだわという感じで、とうとう2時間が終わってしましまして。でよろしいんですか？という話をしたら、また来週来てもらえればって。

で来週またお昼の 1 時に時間を合わせて行ったんですけども、今度行くとヘルパーさんの方も来ていて、で三人でこれから食事しましょうということで昼の食事をいただいて、あとその後コーヒーとお茶菓子が出て、で 2 時間がまた経ってしまいました。

飯村：だいたいそういうことやってると 2 時間は、あっという間に過ぎますよね。

小寺：その 3 回目の訪問で初めてやらせてもらった時がありました。

飯村：はい、わざわざお家まで来てもらうということには、いろんな思いがあると思うんです。勿論パソコンを習いたいという思いもあるでしょうし。パソコンというものを一つのきっかけにして色んな人を関わりを持ちたいとかですね、そういう気持ちもあると思いますね。単純に接触するよりもね、パソコンという共通の話題というものがあると思いがけない展開があると思いますね。

ワードを教えてほしいとかエクセルを教えてほしいとか、あとは障がいによって聞こえない人とか手が不自由なとか色々いらっしゃるんですけども。

人によっては、私はこうゆう方だけ担当させていただきますとか、こうゆう方はちょっと私の力量では無理ですというボランティアさんもいらっしゃるんですけども。

お二人は結構色んな方を担当されているでしょ？特にそうですね、最初は敷居が高い視覚障がいのある方なんかいらっしゃいますね。お二人ともそういう方を担当されていたと思うんですけども。どうですか小寺さん、最初はそういう視覚の障がいのある方とは接するのは初めてだったでしょうか？

小寺：はい、初めてです。

飯村：どんな感じで接しました？最初に身構えたこととか？あるいはそうでもなかったとか？

小寺：その前に注意されていたこと。そのお宅行って勝手に物の位置をずらすとか、そういうことしか頭に持たないで訪問して、実際パソコンをどうゆうふうに触っているのか。訪問した私の方がわかっていないので使い方を教えてもらった感じです。その全盲の方がどんなふうにパソコンを使っているのかとか、どんなふうなキー操作で使いこなしているのか。逆でしたまったく。

飯村：すべてに渡ってこちら教える側が承知しているというわけでもなくてですね。むしろ現場に行ってくださいね、こういうことだったのか、それはちょっと調べないと、教えてもらわ



ないと、ということが結構あって。こっち教わっちゃうんですよね。

鈴木さんいかがでしたでしょうか？鈴木さんも視覚の障がいの方とか対応されていますね。

鈴木：そうですね。やはり以前にも先ほどお話したように会社にも全盲の方がいらして。何にも映っていないディスプレイに向かってキーボードをすごい勢いで叩いてるのを見てたことがあるんですけども。実際伺ってみると、やっぱりそれぞれ使い方に特徴があるといえますか、ご自分の慣れた方法があったりもするので、そういうのを聞き出しながら教えて頂きながら、毎回進めているような状態でした。

飯村：なるほどね。私もね、札幌チャレンジドに来て初めて所謂チャレンジドの人たちをお付き合いが出来たんですけどね。やっぱり特にパソコンというのは障がいのある方にとって役立つだろうとは思ってました。でも実際見えない方がパソコン使っている様子を見ると、こっち予想を予測を遥かに超えてるんですよ。

岡野さん、いかがですかね？

岡野：そうですね、私も初めて視覚障がいの方が実際にパソコンに触れるのを目の当たりにして、またそのソフトを実際に使ってみて、本当に素晴らしいなあっていう感じですよ。

飯村：そうですね。いま視覚障がいの部分についてだけお話ししましたが。それと同様に同じような、こんな使い方して、こりゃすごいよというのが結構あるんですよ。

まだまだ私たちも知らないと思いますし、これからも技術で何が出てくるかわかりません。もっともっと期待して一緒に学んでということをやってみたいですね。

さてですね、いま札幌チャレンジドで障がいのある方にパソコン技術を身に付けていただく、そのお手伝いをするを創業時から行っているわけですけども、その担い手はほとんどボランティアでした。

今専任の講師がいて職員がいて、という組織になっていますが、創業時はボランティアの集まりです。そして今もですね、その活動は多くのボランティアさんのご協力が必要で、そしてご協力いただいている方が今日のお二人をはじめ大勢いらっしゃるということなんです。

それから訪問の話が出ました。いつもですね、チャレンジドの人たちに教室に集まっていたいて、同じ場所で同じことを教えて、そして出来れば同じように楽しんで頂いて共に笑う

ということを目指しているわけですがけれども。これが個人的に訪問致しますと、その人たちにとってパソコンというのはどうゆう位置を占めているんだろう。

パソコンは安くなりましたとは言え、まだまだ安い買い物ではないです。例えば 10 万前後のパソコンという物がこのお部屋のここにあって、そして周りにこういう人たちが居たり居なかったり、そしてご本人がそういう障がいであったり。そんな中でどんな使い方をするんだということの重みをひしひしと感ずますね。そしてボランティアの皆さんの視点からまた教室に入られて、新しい視点を頂くわけです。

今後ともよろしくお付き合いよろしくお願い致します。それではですね、そろそろ時間となりました。また来週も同じ時間でお送りしたいと思います。それではどうもありがとうございました。また来週！

岡野・鈴木・小寺：どうもありがとうございます。